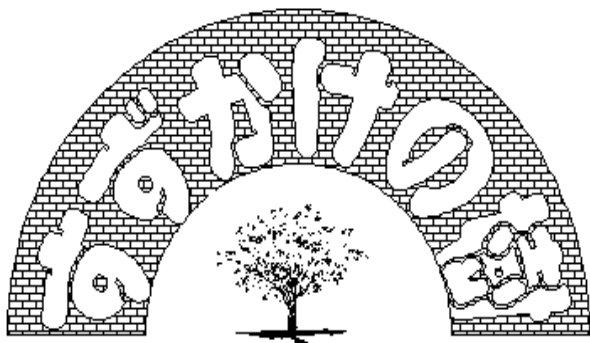




2017. 3. 31発行 No.137

社会福祉法人 すずかけ福祉会

すずかけ共同作業所

愛知県小牧市南外山間島15-1 Tel.0568-71-3644 fax.0568-71-3649

さん

愛知県小牧市小針2-356-2 Tel・fax0568-75-3991

すずかけホームそよ風・すずかけホーム虹の家

愛知県小牧市南外山間81 Tel・fax0568-76-8151

すずかけホーム青空・すずかけホーム太陽

愛知県小牧市小針2-356-1 Tel・fax0568-75-2888

ヘルパーステーションとなり

愛知県小牧市小針2-356-1 Tel0568-90-0111 fax0568-90-0112

成人おめでとう！

2017年に入り、最初の行事は成人式！今回の主役は、白崎壮一郎さんです。壮一郎さんはすずかけの仲間で、おひさまグループに所属しています。おひさまグループの中では、ムードメーカーでいろいろなことを言って、周りを明るい雰囲気にならせてくれています。

そんな壮一郎さんは、成人式に向けて「スーツを新調しよう！」と家庭で話していたのですが、当日スーツは着られず…。少し残念。ただ、緊張した様子もなく、式の途中で大あくびも出ていました（笑）。そんな中、自分の紹介の写真が大きな画面に映ると、「壮ちゃん！（僕が映ってるよ！）」とアピールしていました。お母さんは「自分大好きですから」と話してくれました。

そして、「はたちのけつい」。当日のために職員と一緒に考えたリするなど準備をしていましたが、当日は画用紙の前で固まってしまいました。少し難しかったかな？



「がんばることを自分の好きなように書いてみたらどう？」という言葉に、書いたのは好きな（？）アニメのタイトル！その流れで特技披露へ。担当職員と一緒に「ちびまる子おんど」を踊りました。ちょっとしたハプニングもありましたが、これも一つの思い出となったことでしょう。

今回の成人式は、各グループからの出し物がありました。例えば、いちごグループからは、ひとり一言メッセージと「ぼくたちのしごと」の歌声。さらんからも「恋ダンス」でお祝い。しっかり見ていました。最後に全員で「はたち」を歌いました。壮一郎さんのこれまで歩んできた道と照らし合わせていたのか、お母さんもぐっとくるものがあったように思えました。その姿を見て、もらい泣きをする仲間も…。

こちら側の段取りや時間配分に反省点はありませんでしたが、とても素敵な時間でした。これから集団の中で、仲間たちとの関係がどんどん豊かになっていってほしいなと願っています。

壮さん、成人おめでとう！



（職員 加藤 邦章）

ほっとできる自分の居場所 仲間、ホーム職員の思い



「すずかけホーム太陽」が開所してから6年目を迎えようとしています。太陽は、比較的障害が重いとされている仲間たちが生活しています。太陽が開所する前のホームに入っていた仲間2名と、新たに入った仲間3名の計5名です。開所当時（2012年）は、ホーム生活に慣れている青木さん、堀田さんの2名からのスタートでした。そこから新しくホームに入る東さん、舟橋さん、渡辺さんが入れ替わりで週に1泊や2泊するところから始めていき、徐々に宿泊数を増やして今の生活に移行してきました。

ドラえもんやDVDを見るのが好きな東さんは聴覚が過敏であるため、当初夜間の足音やちょっとした物音、他の仲間の声などが気になり、なかなか寝付けない日々が続きました。しかし、今ではある程度の物音でも気にならなくなり、睡眠リズムは安定しています。睡眠に課題がある渡辺さんも睡眠リズムが安定せず、きちんと寝た次の日は寝つきが極端に悪かったり、一睡もできなかったり...というような状況でしたが、ホームの生

活を続けていくうちに、だんだんと睡眠リズムが定着してきて本人にも『夜は寝る』ということが意識ついてきています。ホームでの生活経験が長い青木さんは、みんなの兄貴分的な存在で、他の仲間達に優しく「元気？」「ごはんできたよー」など、こまめに声をかけて気にかけてくれています。青木さんと同じくホームでの生活経験が長い堀田さんは、手伝いが得意で、食器拭きや箸並べ、食後のコーヒの準備、このほか色々なことに気がまわり、よく動いてくれます。

ホームの生活が気に入っている舟橋さんは、ホームで生活リズムが整っていく中で、これまで横になっていたことが多かった日中活動に、起きて参加出来るようになり活動的になっています。そういった舟橋さんの姿は、改めて生活リズムを整えることが本人の日中活動の豊

かさにつながっているということを私たちに実感させてくれています。

また、日々の生活をホーム職員が連携し支えてきたことで、当初と比べると

ホーム太陽の仲間達はそれぞれで安定した生活を送れるようになってきました。

生活・暮らしの場というのは日中

活動の場よりもスポットライトはあたりにくく地味なイメージがあります。しかし、その人にとっての「当たり前な生活」を毎日支えていくことは、土台の部分であり重要なものです。私は、ホーム職員として仲間達の生活を支えるこの仕事に10年ほど携わっています。仲間達のほっとしている姿やホーム生活を送っていく中で仲間達の嬉しい変化、そして毎日の安定した生活を守っていくことにやりがいを感じています。

ホームは一人職場であるため、その時々で職員が判断して対応することが多くあります。また、生活の場での支援は多岐にわたります。しかし、ホーム職員の担い手が不足している状況は依然として続いています。仲間達の豊かな生活を守っていくためにも、法制度がもっと良くなっていくことが望まれます。そのためにも、職員の処遇がもっと良くなるように運動を続けていく必要があります。



（ホーム職員 加藤 和明）

～いつもとは違う年度代わり～

昨秋、法人としては3つ目の事業となる「ヘルパーステーションとなり」を開設し、地域の「障害者」や仲間たちの豊かな地域生活に少しでも貢献できる活動をスタートさせました。また、年度末と新年度に新たな利用者（日中活動）各1名を迎え、新年度が始まります。

一見、通常の何でもない年度代わりの様相ですが、経営主体である「社会福祉法人」の組織のあり方に係わる大変革が政府（厚生労働省）により断行されました。

それは、本紙第134号で『現政府の「企業が世界一活躍しやすい国をめざす政策」の一環として、社会福祉事業の分野に営利企業を更に参入させる計画を進めている』と述べましたが、政府は2016年3月31日の国会で社会福祉法改正案を成立させ、社会福祉法人制度改革に着手しました。

そもそも社会福祉法人は、憲法25条に基づき社会的弱者の生活と権利を守る経営体として戦後の日本の社会福祉を非営利の立場で担ってきたものであり、「福祉」と「営利」とは相容れないのが原則です。今回の法人制度改革はこの原則を撤廃するために法人の財産を新たな地域貢献事業に投じさせ、また、これまで法人運営の最高決議機関であった「理事会」を業務執行機関に移行させ、第三者的な人材から成る新たな「評議員会」を必置の最高決議機関（理事の解任等の重要事項の決議を行う）とし、理事会を牽制する役割としました。従来の法人運営を抜本的に変える布石に他なりません。

全国の社会福祉法人はこの1年間、この法人制度改革の対応（定款の変更や評議員・理事等の人選等々）に翻弄され、当法人も組織の改編を余儀なくされました。また、今改革では、職員の退職共済の公費補助も撤廃され、政府の標榜する「福祉人材の確保」とは真逆の施策であり納得できるものではありません。当法人は、今後もこの動向を注視し、「真に憲法に依拠した法人運営」を追求します。

（理事長 河内 士郎）

入職して1年が経って

元々、障害のある方と関わる仕事がしたいと思っていたのですが、実際に福祉の現場で働くというのは初めてだったので、不安と期待を持って入職しました。

入ったばかりの頃は、覚える事に精一杯になってしまい、仲間を見る目が一人に集中してしまったり、仲間の言いたいことが読み取れなかったりして「大丈夫かな…」と思うこともありました。

しかし、一年が経ち仲間や職員の動きを見られるようになり、気持ちにも少し余裕が出てきました。もちろん大変な事もありますが、毎日仲間が見せてくれる何気ない表情や笑顔、言葉に励まされて楽しく過ごしています。仕事一つにしても一人一人違い、やりやすい方法を自分たちで見つけてやってみようとする姿や、本当はやりたくないけれど先のことに見通しをもって取り組む仲間、少し休んでから取り組む仲間。「みんな違ってみんな良い」。本当にその通りだなと感じます。

ある研修で、『へき』が怒りを生むという話を聞きました。「これはこうでなくてはいけない」という決めつけが、「怒り」となるというものです。今までは、仲間の仕事の時間に「仕事をしなくてはいいな」という思いを持ってしまっていて、仲間が「やりたくない」と言っても、「やるよ」と声を掛けたりしてしまっていたのですが、その話を聞いて「あっ違っんだ。今はやりたくないんだ。そういう時があってもいいか」と思うようになりました。それは、そうやって自分の気持ちをしっかりと伝えてくれる仲間が居てくれたからこそ学べたことでした。

これからも学び続けて、自分で考え、周りと協力して行動していけるようになりたいと思います。

（職員 太田 翔子）

◆私の絵がカレンダーになるかも

毎年、「きょうされんグッズデザインコンクール」に応募していますが、今回も快挙！中島愛子さんの絵「空とぼうし」が入賞、岩本重一さんの絵「カレーと嫁ちゃん」が入選しました。中島さんのぼうしの絵は、網目模様がとっても細かくて、くじけそうになりながらも頑張って描き上げました。それだけに入賞は嬉しいですね。来年のカレンダーに載るかもしれません♡



空とぼうし



カレーと嫁ちゃん

◆さらんの野菜が『やまひこ』さんに

並びますよ！

近年、畑の仕事が大忙しのさらん。この冬も畑の野菜が大豊作！今はリーフレタスや大根などです。そしてこの春から地元のスーパ―「生鮮館 やまひこ小牧店」さんに、さらんの野菜をおいていただくことになりました。今までは身内販売が中心でしたが、広く皆さんの手にとっていただけることになって嬉しいですよ。

よろしくおねがいします。

◆トヨタ産業技術記念館を

見学したよ！

すずかけ1階作業班の仲間たちで社会見学に出かけました。体験コーナーが面白く、夢中になっていましたよ。その後はレストランでカレーランチ！楽しかったね。

◆新人職員紹介

皆様初めまして。12月から入った西村優二郎と申します。趣味はサイクリングです。福祉の世界は初めてでまだ分からないことばかりですが、日々勉強し、精進してまいります。よろしく願います。

(西村 優二郎)

◆ヘルパーステーションとvari

近況報告

11月にスタートしたヘルパーステーションとなり。少しずつですが動き始めています。バスや電車に乗って出かけたり、すずかけホームのヘルプに入ったり。通院の付き添いもしています。

これからもよろしく願います。

※ヘルパー随時募集しています！

◆ありがとうございました

イオン小牧店さまより、クリスマスプレゼント（ジューサーミキサーとプリンター）をいただきました。大切にに使わせていただきます。ありがとうございます。

◆編集後記

最近、大学時代の軽音楽部のメンバーと趣味で再活動する機会があり、すごくやりがいを感じたのと同時に改めて感じたことがあります。それは「仲間たちもきつというんなことがやってみたいだろうな」ということ。気持ちはあってもうまく表現できないし、どうすればいいのかわからない。自分でもそのことに気づいていないかも…。きつとそんな仲間が多いのではないだろうか。でも、一人一人の仲間の人生が彩あるものになるには、どうすればいいのか。職員はそんなことを願ったり、悩んだりしながら日々それぞれの現場で働いていると思います。私自身も、ヘルパーステーションに関わるようになり、また違った視点から仲間のことを考えています。

ただ、「福祉は権利」というように、社会全体で取り組まなければならないことが多く、そこを抜きには考えられない情勢が続いています。いろいろな矛盾を感じたり、目の前のことに追われることはありますが、少しでも意識してひとつひとつ自分ができることをがんばっていききたいと思っています。

(森下)